

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚扁平上皮癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Cutaneous squamous-cell carcinoma	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	SCC-CQ9-1、WEB-CQ9-1、SCC-CQ10-1	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I)	
	Pubmed ID	11274625	
	医中誌 ID		
	雑誌名	N Engl J Med	
	雑誌 ID		
	巻	344	
	号	13	
	ページ	975-83	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2001 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Alam, M	コロンビア大学
	その他著者 1	Ratner, D	Columbia-Prebyterian Medical Center
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

レビュー研究の6項目	目的	皮膚扁平上皮癌の疫学、診断、治療法をレビューする
	データソース	記載なし
	研究の選択	記載なし
	データ抽出	記載なし
	主な結果	<p>発生に寄与する危険因子：Table 1 参照</p> <p>臨床所見：扁平上皮癌は頭頸部領域から最も発生しやすかった。Keratoacanthoma は増殖スピードが速かった（病理学的鑑別は時に困難）。Verrucous carcinoma はまれな扁平上皮癌で、切除で通常は治癒した。</p> <p>再発の危険因子：Table 2 参照</p> <p>腫瘍径、免疫抑制、既治療歴、深部浸潤(>4mm)、低分化型、神経浸潤など</p> <p>治療法：切除、electrodesiccation、cryosurgeryなどで90%以上が治癒した。低リスクであれば再発率は5-8%程度。高リスクでは15-25%に達した。</p> <p>放射線療法：手術に不応の症例などに行われ、分割照射を行う。他の治療法との組み合わせで行われることが多い。高リスク群では術後放射線療法が考慮される。リンパ節転移例では手術、放射線、手術+放射線などが行われ、約30-40%が治癒するにとどまった。</p>
	結論	皮膚扁平上皮癌は概ね良好な成績であるが、一部の症例で再発や転移が見られ、その予後は不良である。十分な問診と全身の皮膚の観察が重要である。皮膚癌はある程度予防可能な疾患である。日焼けを避けるなどして命に関わる重篤な病態を作らないよう喚起を促す必要がある。
備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人
	レビューワーコメント	<p>皮膚扁平上皮癌の疫学、診断、治療法までをレビューしている。一読の価値あり。厳密にはシステマティック・レビューではないが、詳細に検討されており、それに準ずるものと評価した。</p> <p>レベル I</p>